

Welcome to 昇龍道

～日本の美しさはここにある～

応募区分： 高校

チームID： SL500102

チーム名： チーム昇龍道

学校名： 愛知県立愛知商業高等学校

学年： 3年

リーダー名： 坂本優梨果

メンバー名： 今野志保 久木原諒哉 山口恭平

指導教員： 寺田陽一(商業科教諭)

要旨

2008年、日本の人口は減少を始めた。今後、少子高齢化が進むことによって、生産年齢人口も減少し、日本の経済は衰退の一途を辿っていくのか心配される。現在の日本は「モノづくり」において、世界的に信頼され、世界市場で多くのシェアを握っている。この「モノづくり」こそが日本の伝統である。しかし、その「モノづくり」の伝統が引き継がれず崩壊しつつある産業も多い。また、途上国におけるモノづくりの急激な進歩に脅威を感じる。今後、日本はどの方向性で発展していけばよいのだろうか？ そのような疑問を感じ考えたところ、やはり日本の伝統や文化というのが今後の日本を発展させてくれるのではないかと結論に至った。日本は島国であり、他国と違う文化、伝統、自然など世界に誇れるものが多い。この素晴らしい武器を観光で生かし、諸外国の方に訪問していただきお金を使っていただくことで、人口減による消費額の減少を補うことができるのではないかと考えた。また、私たちの地域を活性化させるために観光を生かすことはできないのか。私たちが住んでいる中部地方はまだ観光業が盛んではない。しかし、私たちが住んでいる地域には素晴らしい観光資源がある。それを知っているからこそ、この中部地方の観光は可能性があると感じる。そのような考えから私たちは、観光での地域活性化について考えてみることにした。

目次

要旨 (P2)

【STEP1】

経済・株式投資学習内容を確認してみよう (P3～P4)

【STEP2】 レポート

1 暮らしや社会の変化と経済との関係 (P5～P6)

- ・注目されているニュースの選定

2 投資テーマの決定 (P6～P8)

- ・今後成長が見込まれる分野について
- ・投資テーマの決定とその理由

3 ポートフォリオの作成 (P9～P24)

- ・スクリーニングについて
 - 第一スクリーニング
 - 第二スクリーニング
 - 第三スクリーニング
 - 第四スクリーニング
- ・ファンド名
- ・長期チャートと短期チャートでの比較

4 投資家へのアピール (P25～P26)

- ・投資家への PR

5 日経ストックリーグを通じて学んだこと (P27～P29)

- ・昇龍道の課題とその将来性
- ・中部運輸局訪問記
- ・私たちが学んだ多くのこと

6 参考文献・参考サイト (P30)

【STEP1】経済・株式投資学習内容を確認してみよう

【1-1 身近な暮らしから経済を考える】

- ☐「経済」とは、私たちの生活に必要な「財(モノ)」や「サービス」を(生産)し、(流通)させ、(消費)することをいう。
- ☐「財(モノ)」には、自分でお金を払って自分で消費する(私的財)と、不特定多数の人たちが利用する(公共財)がある。
- ☐経済活動を行う主体としては、生産と流通の主体である(企業)、財やサービスを消費する主体である(家計)、国民から税金を徴収し公共財の供給などを行う(政府)がある。
- ☐自分たちが必要とする品物を自分たちの社会で賄う自給自足型の経済とは異なり、より生産効率を上げるための現代の経済活動の基本原理は(分業)と(交換)である。
- ☐財やサービスの取引(交換)の手段として使われるお金(通貨)には、紙幣や硬貨などの(現金通貨)と、銀行口座などに預けてある(預金通貨)の2種類がある。
- ☐経済活動には、「限られたお金と時間をどう使うのか」という判断(意思決定)が常に求められる。その意味から、「経済とは(選択)である」と言うことができる。

【1-2 社会の変化から経済を考える】

- ☐土地や株などの資産価格が高騰し、日本中が好景気に沸いた 1980 年代後半から 1990 年頃までの状況を(バブル景気)という。
- ☐日経平均株価が最も高かったのは(1989)年の(38,915)円で、いまだにこの株価がピークである。
- ☐出生率の低下などで子どもの数が減少し、人口構成に占める 65 歳以上の割合が急速に進んでいる状況を(少子高齢化)と呼び、日本が直面している大きな課題の一つである。
- ☐国の経済を成長させるためには、①(労働)の投入量を増やす、②(資本)の投入量を増やす、③技術革新を促し(生産性)を高める、ことが必要となる。
- ☐人口減少社会である日本では、(女性が活躍)する社会の実現が重要課題となっている。その際、労働力の確保という観点だけではなく、多様な働き方・生き方を選択できるような支援が必要となる。

【1-3 グローバルな課題から経済を考える】

- ☐グローバル化の進展に伴い、多くの企業が世界規模で事業展開することで、(モノ)、(カネ)、(ヒト)、(情報)の動きや取引が活発化し、地球の一体化が進んでいる。
- ☐「経済のグローバル化」がもたらすメリットとデメリットを、それぞれ3つ以内で書き出してみよう。

メリット	デメリット
市場が世界全体となる。	日本固有の文化が失われる可能性がある
海外の商品が身近になる。	為替リスクが発生する。
雇用が増え、技術移転が起こる。	安い輸入品が入ってくることにより、国内の生産者にとっては死活問題となる。

- ☐2つ以上の国や地域間で、貿易などに関して締結される包括的な協定として、(自由貿易協定)と(経済連携協定)がある。
- ☐投資しやすい環境整備と投資家や投資財産の保護を目的に、投資に関して二国間で締結する協定を(二国間投資協定)という。
- ☐地球環境問題、人口問題、感染症対策など、人類共通のグローバルな対応が必要となる課題を(グローバル・イシュー)という。

【1-4 経済の動きを読み解くための基礎知識】

- ☐「一定期間に国内で生産されたモノやサービスの付加価値(もうけ)の合計額」のことを(国内総生産)といい、実際に市場で取引されている価格に基づいて推計された値の(名目GDP)と、そこから物価の変動分を取り除いた値の(実質GDP)の2種類がある。
- ☐市場経済では、消費者・生産者の行動に対し(価格)が(インセンティブ)として機能している。
- ☐例えば、1ドルを何円と両替できるのかといった、自国通貨と外国通貨の交換比率のことを(外国為替相場)という。
- ☐政府は(財政政策)によって景気の安定をはかり、中央銀行(日本銀行)は物価の安定を目指して(金融政策)を行っている。
- ☐金融の形態は、金融機関を通すか通さないかによって、(直接金融)と(間接金融)の2通りに分けられる。

【1-5 知っておきたい株式投資の基礎知識】

- ☐世界で最初の株式会社は(1602)年にオランダで設立された(東インド会社)で、日本では商法に基づいて設立された株式会社としては(1883)年の(日本郵船)が第一号である。
- ☐株式を所有することで得られる金銭的な利益には、(インカムゲイン)と(キャピタルゲイン)とがある。
- ☐銀行預金と株式投資を比べた場合、一般に、元本が保証されている銀行預金は(安全性)に優れ、株価の値上がりが期待できる株式投資は(収益性)に優れている。
- ☐株式投資に伴うリスクとは、「(期待通りのリターン)が得られるかどうか分からない度合」のことで、株価が日々変動する(価格変動)リスク、外貨預金などをする際の(為替変動)リスク、外国企業に投資する場合、その国の政治・経済状況の変化による(カントリー)リスク、企業の金利負担の増大を招く(金利変動)リスク、投資先企業の経営状態の悪化に伴う(信用)リスクなどがある。
- ☐投資のリスクを小さくするためには、(投資先)と(時間)を分散させることが重要である。

【STEP2】レポート

1 暮らしや社会の変化と経済との関係

【1-1】 日常生活や社会全体をめぐって注目される最近の動きや、私たちが直面している様々な社会的課題の中から、自分たちが特に重要と考える事項をいくつか選び、その理由と経済や企業活動への影響をまとめてみよう。

注目されているニュースの選定

私たちは投資テーマを決めるにあたり、どのような方法でテーマを決めていくかブレインストーミングを行った。新聞の切り抜きを使う方法や、個々でインターネットを使って興味あるニュースを選び、その後議論を行う、など様々なアイデアが出た。そのアイデアの中で「2015年上半期の10大ニュースを参考にしてみると面白いのではないか」という意見が出た。10大ニュースは現在の問題点や注目点を表しており、今回のテーマを探すのにはもってこいであると全員が賛同したので、まずはこれについて調べることにした。調べてみると、株式投資にあたり興味深いニュースが並んでいた。

私たちが参考にしたのは、ZUU online (<http://zuuonline.com/archives/84217>) というサイトを利用した。

2015年上半期10大ニュース

1位	国内3位スカイマーク経営破綻、民事再生法の適用申請
2位	訪日外国人客の急増 上半期4年連続増加
3位	東京会場ホールディングスが海外損保買収
4位	新国立競技場建設計画の白紙撤回
5位	世界最大の動画配信事業者 Netflix、日本上陸
6位	北陸新幹線開業 首都圏客による経済効果は212億円
7位	マクドナルド、異物混入騒動と業績悪化
8位	シャープの赤字転落、経営再建なるか？
9位	「Apple Watch」4月に発売 期待ほど売れず
10位	Pepper 発売、将来のロボット事業拡大への第一歩

今年の上半期、新聞やテレビを沸かせたニュースばかりであった。スカイマークの経営破たんなどは、授業でも学んだ。マクドナルドの異物混入事件は、普段よく利用する店であるからこそ、とても関心をそそられた。これらの10大ニュースを見ていると、「いくつかの分野に分かれないかな？」との意見が出た。このことから、いくつかの分野に分けてみた。すると、下記の図のようになった。

これらは、ここ最近の日本経済の様子をよく表しているとともに、これからの日本を作り上げていくために重要なキーワードになると思う。私たちはこれらの課題と経済への影響について考えてみた。

1. 7. 8位

大手企業の経営不振

2. 6位

観光事業での経済効果

9. 10位

スマートビジネス

< 大手企業の経営不振 >

選んだ理由	課題	経済への影響
日本の大手企業は日本経済だけではなく世界経済を引っ張る存在である。過去にも復活した企業が多々あるが、復活するために多くの改革を行ってきた。そこに新たなビジネスチャンスが生まれないか。	復活するためには、不採算の分野を切り捨てる勇気が必要である。また、既存の価値にとらわれず、新しい価値を生み出すために、経営陣の入れ替えが必要になる。	自社だけでなく、多くの下請け企業に大きな影響を及ぼす、またリーマンショックのように1つの大企業の倒産が世界的不況を生むこともある。また、法人税収入も減り、国も痛手となる。

< 日本の観光事業 >

選んだ理由	課題	経済への影響
日本ならではの文化は世界の方々に非常に興味を持っていたい。これをうまく活用すれば、素晴らしいビジネスチャンスになるのではないかな。	世界に対するPRが上手くない。日本の何をPRするのか官民一体で考える必要がある。日本は単一民族国家であり、外国語での案内板や外国の方に合った食事など、(特に宗教的な慣習を持っている方に対する) 外国人を受け入れる環境整備がまだまだ整っていない。	観光客の宿泊費や交通費、お土産代などの出費が地方経済の活性化、日本経済の活性化につながる。日本人の人口減による消費額減を旅行者で補うことができる可能性がある。

< スマートビジネス >

選んだ理由	課題	経済への影響
今、技術は猛スピードで進化しており、私たちの生活に欠かせないものとなっている。今後もビジネスチャンスが大きい分野であるため。	ロボットの実用化は時間がかかり、また高額なものが多くわたしたちにはなかなか手が出せない。また、ロボットが人間の知能を超えて私たちを支配してしまう危険性はないのか！？	オートメーション化やロボット化により職を失う人が出てくるため、所得に格差が出てくるのではないかな。その反面、日本人の人口減による労働力不足を解消することができる。

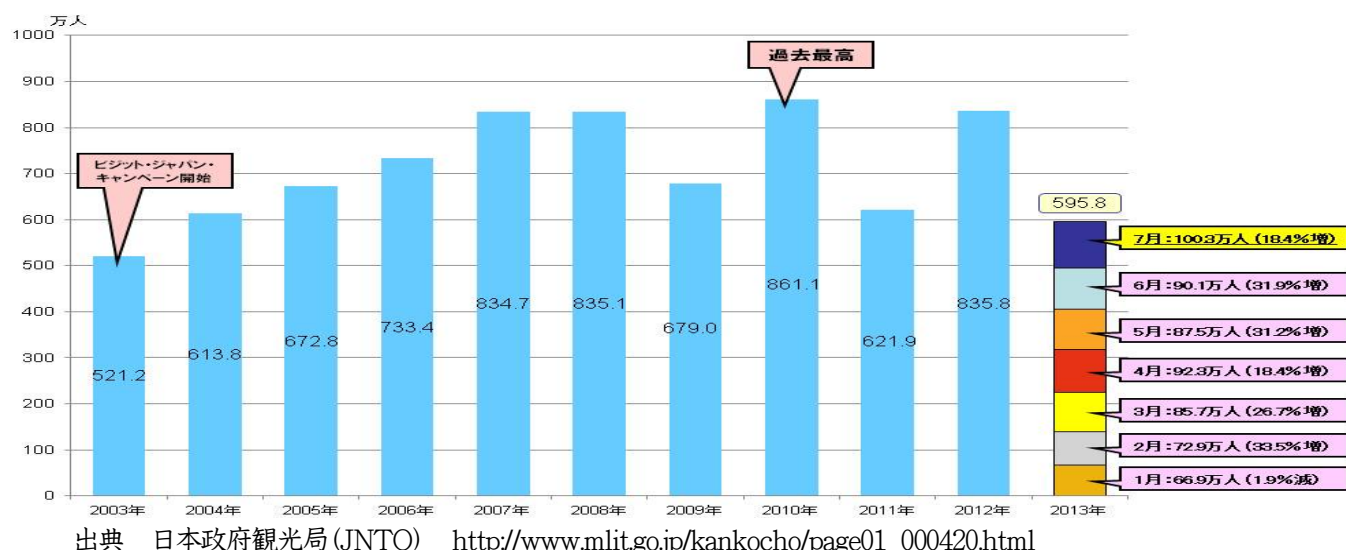
2 投資テーマの決定

【2-1】 1-1でまとめたことなどを基にしながら、「今後成長が見込まれる分野」または「投資してみたい企業」について考え、それに関連する記事や情報をいくつか選び出してみよう。

今後、成長が見込まれる分野について

3つのテーマについて考えたが、その中で、成長が見込まれる分野について議論を重ねたところ、日本の観光事業とスマートビジネスの2点に絞った。2点について各自で新聞やインターネットを使い調べその後、議論を行った。

日本の観光事業は、「住んでよし、訪れてよしの国づくり」を掲げ平成15年4月から始まった小泉内閣によるビジット・ジャパン事業の効果や、最近の円安傾向の影響もあり、旅行者数は年々増えている。最近ニュースなどでよく聞く中国人の「爆買い」によって海外の方が日本に経済効果をもたらしている。また、2020年に開催される東京オリンピック、2025年のリニア中央新幹線の開通による注目度増により、訪日外国人の数はまだまだ増加することが予想されることがわかった。そこで私たちは、現在日本の人口減に伴う消費額減を外国人旅行者によって補える可能性もあるのではないかと考えた。



もう1つはスマートビジネスだ。現在、世界中で技術は進歩し、わたしたちの周りの物はどんどん便利に豊かになっている。今まで手作業で行っていたことがオートメーション化されれば生産性はとても向上する。また、最新機器への注目度はとても高く、iPhone発売日には全国で行列ができています。最近のテレビCMはスマートフォンやアプリに関係するものが多い。時間帯によっては、半数近くスマートフォンやアプリのCMというのも珍しくないような気がする。それらに関係する企業は株価が大幅に上昇し、特にガンホーは、3年前、短期間で200倍近い株価になった。今後も世界経済にIT企業の存在は必要不可欠のものになるであろう。

【2-2】 投資してみたいテーマを選び、その理由を述べよう。

投資テーマの決定とその理由

2点のテーマについてどちらにしようか悩んでいたところ、私たちの背中を押す1つの新聞記事に出会った。それは6月6日朝刊。伊勢志摩でサミットが開催されるという記事が1面を飾り、私たち住む東海地方の人間にとってはとても喜ばしいニュースとなった。サミットによって経済効果が期待されるため、三重県に関連する銘柄の株価は軒並み上がり、国民の期待を感じられた。その記事の中に気になる言葉を発見した。それは「**昇龍道プロジェクト**」という言葉だ。記事には伊勢志摩サミットによって昇龍道プロジェクトにもプラスの作用が働くことが書かれていた。私たちはこの「昇龍道プロジェクト」にとても興味を持ったので、調べてみることにした。



今回参考にした新聞の切り抜き

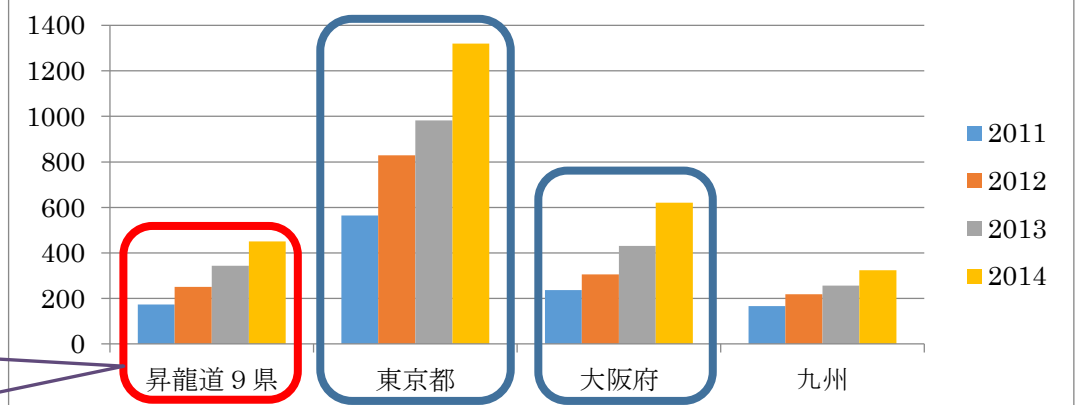


昇龍道プロジェクトとは

中部北陸9県(愛知・岐阜・三重・静岡・長野・滋賀・福井・富山・石川)が官民一体となって、外国人観光客誘致を推進するプロジェクト。能登半島を龍の頭に、三重県を龍の尾に見立てて「昇龍道」と命名し、中部9県をくまなくカバーしながら天に昇っていく龍に重ねて運氣も上昇していこうという願いもこめられている。

< 昇龍道プロジェクトが生まれたわけ >

昇龍道9県と他都市との外国人延べ宿泊数の比較
(2011~2014)



昇龍道9県合計でも・東京や大阪に及ばない

中部地方、特に愛知県は製造業に偏っており、観光業はあまり盛んではない。資料の通り、昇龍道9県の観光者数は全県足しても東京・大阪府に及ばない。しかし、中部地方にはおいしい食べ物・きれいな海や山も他地域に負けないくらい、いや、むしろ他地域より多くの魅力がある。現在は東京―大阪間のゴールデンルートの通り道になっている。世界遺産登録された富士山も、新幹線の中から眺めるだけになっている。そのような現状はもったいないじゃないか！もっと中部地方の魅力を発信していこうという目的でこのプロジェクトは立ち上げられた。

< 具体的な取組み >

1. 観光力の強化

「昇龍道春夏秋冬百選集」の中から代表的なものを厳選。また、世界遺産登録された富士山の説明を修正するなどし、昇龍道百選「簡易版」を平成26年3月に発刊。英語35,000部、中国語(簡体字・繁体字)各25000部、タイ語10000部を準備している。

2. ホスピタリティの強化

昇龍道に訪れた外国人がウェルカムカードを提示して観光・宿泊施設、交通機関から割引等の特典を受けることができる。平成25年5月に開始し、加盟施設の増強を図り平成26年4月に更新。

特典提供施設 当初: 414店舗・施設

↓
現在: 約600店舗・施設



他にも、訪日外国人向けに「昇龍道高速バスきっぷ」や、中日本高速道路(株)が定額高速道路乗り放題パスである「Central Nippon Expressway Pass」を発売し、より快適な旅が送れるサポートをしている。また、中部国際空港セントレアでは、昇龍道を訪れた訪日客が帰国する際に「お見送り」のすることの意を込めて、越前和紙を使った龍のPR装飾を設置している。

< 昇龍道プロジェクトの可能性・伊勢志摩サミットの関係 >

昇龍道は、知名度の低さが課題とされており、広域観光周遊ルートと認定され国のお墨付きを得たことで、来訪者数の底上げが期待できそう。また、サミットが開催するとなると世界的知名度も上がるので、この昇龍道をPRする絶好の機会になるのではないかな。中部には、雪・自然・歴史と文化・温泉・ゴルフ・ショッピングなど日本に求められるすべての要素がある。

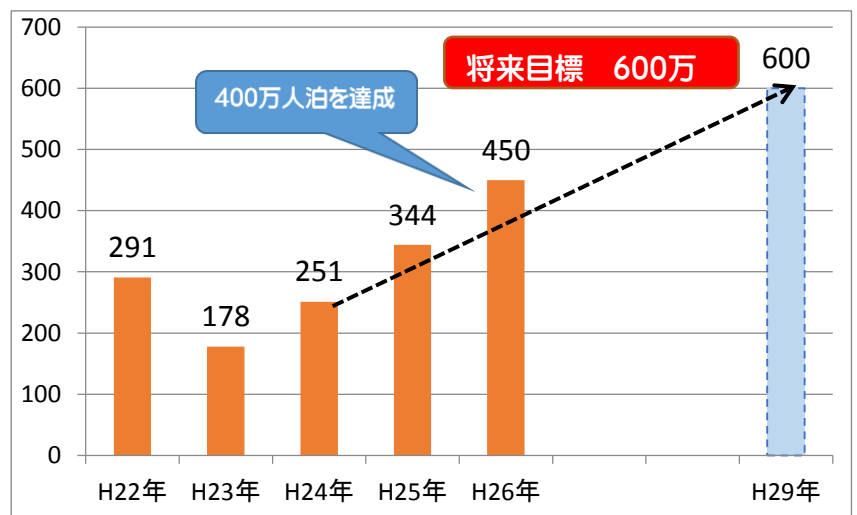
→ リピーターが増えるほど、観光ルートとして中部が発展する可能性◎

現在、第4回昇龍道PJ推進協議会(H.25.9.26))は、平成29年までの目標として600万人泊を目指している。(右図参照)

今回のサミットで伊勢志摩が選ばれた理由のひとつとして、警備面でのメリットがあげられる。首脳会談の開催が予定される賢島は、本土とは2本の橋のみでしかアクセスできないことに加え、皇族や首相らの伊勢神宮参拝で三重県警が要人警護に習熟している点が決め手となった。今回しっかりとした警備ができれば、日本の安全性をアピールでき、日本、中部地方の観光地としての人気アップが期待できると考えた。

また、3月16日に北陸新幹線が開通したことで、東京から富山・石川への新たな観光客の流れに伴い中部地方への誘客効果も期待される。そのためにも、北陸・中部が連携した、交通利便性の強化、受け入れ環境の整備などによって外国人観光客が快適に周遊できる環境づくりを進める必要がある。今回のサミットの経済効果は1110億円と発表されており、中部経済にも大きな変化が出てくると予想されている。

この昇龍道プロジェクトは、先ほどの気になるニュースの中で、観光事業での経済効果増にとっても関係のある内容である。また、これは私たち中部地方の地域が活性化する可能性を秘めた、私たちにとってはとても興味のある題材であった。このことから私たちは昇龍道プロジェクトに関係する企業に投資することに決定した。

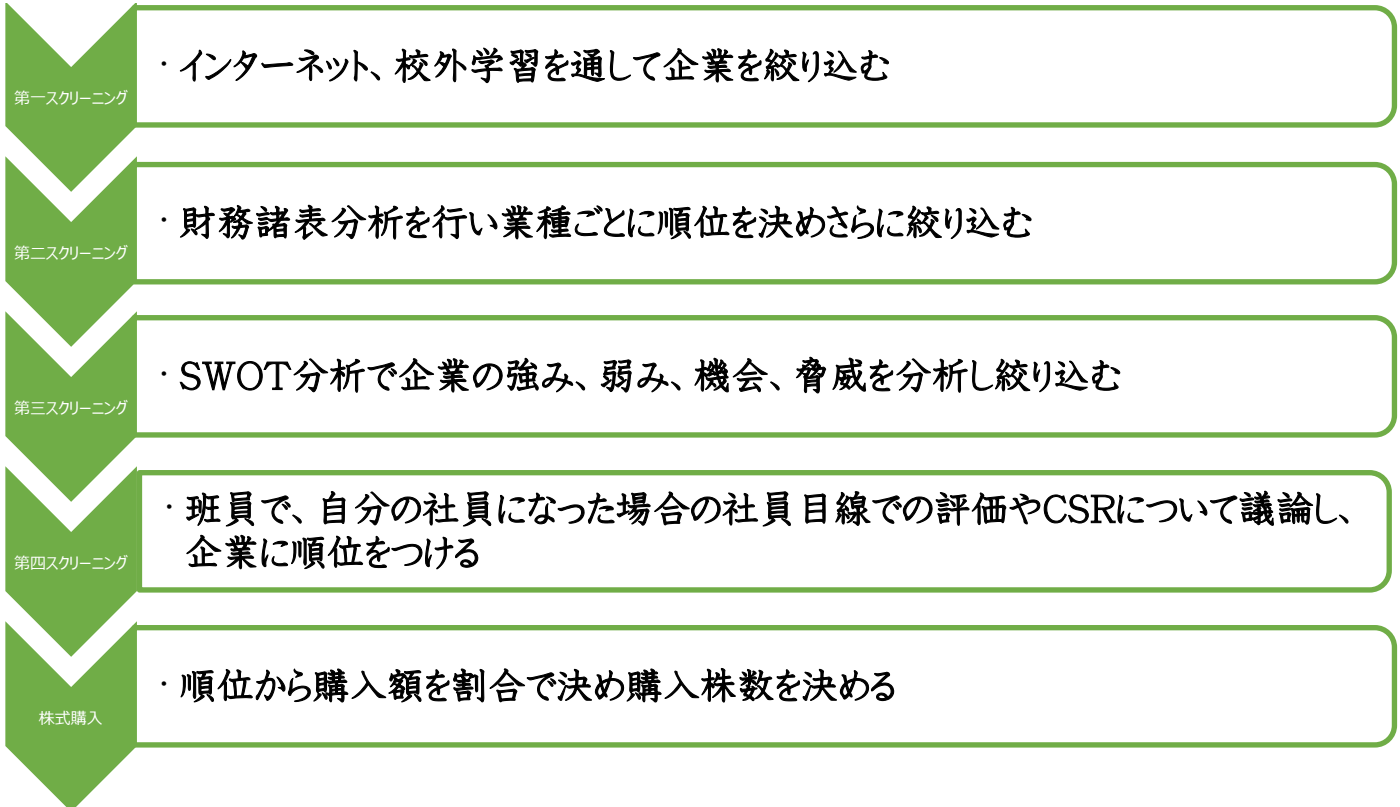


3. ポートフォリオの作成

【3-1】決定した投資テーマに基づいて投資する企業（銘柄）の選び方（スクリーニング）を決め、その手順に沿って最終的な投資先企業を選ぼう。

スクリーニングについて

昇龍道プロジェクトと伊勢志摩サミットに関連する企業を選択し、投資先を決定するまでの流れが以下のとおりである。



第一スクリーニング

<インターネット、校外学習を通しての企業の抽出>

昇龍道ではインバウンドの招致と観光が重要となってくるため、交通系企業や道路などを整備するインフラ系企業。官公庁訪問（訪問記について P27）の際に中部運輸局の方からインバウンド達が旅行先を決める際に、旅行ブログを見て決めることが多いと伺ったので、SNS を運営している企業。また、最近よくニュースで耳にする中国人観光客の「爆買い」に応えることのできるショッピングなどの小売企業を中心に企業の抽出を行った。

それに加え、伊勢志摩サミットでは各国の要人たちが集まるため、会場を警備する会社や、インターネットのセキュリティを行っている企業を。サミットが行われる際に交通やインフラを整える必要があるため交通とインフラ関係の企業を抽出した。これをもとに以下 29 社を抽出した。



ミクシィ、サイバーエージェント、FFRI、トレンドマイクロ、トヨタ、エイチ・アイ・エス、デジタルアーツ、日本道路
 クスリのアオキ、セブンアイホールディングス、ALSOK、東海旅客鉄道株式会社、ユーラシア旅行株式会社
 グリー、VT ホールディングス、ANA ホールディングス、三井不動産株式会社、リゾートトラスト株式会社、
 株式会社ローソン、株式会社ファミリーマート、西日本旅客鉄道会社、KNT-CT ホールディングス、イオン、
 阪急阪神ホールディングス、ユニーグループホールディングス、三重交通グループホールディングス、名古屋鉄道株式会社、
 近畿鉄道グループホールディングス、東京急行電鉄株式会社

安全性分析: 「流動比率」 「当座比率」 「自己資本比率」 「固定比率」 「負債比率」

収益性分析: 「売上高純利益率」「売上高総利益率」 「受取勘定回転率」
「固定資産回転率」 「自己資本回転率」

株式指標分析: 「自己資本利益率」 「株価収益率」 「一株当たり純資産」 「株価純資産倍率」

成長性分析: 「売上高成長率」 「経常利益成長率」 「総資産成長率」

有価証券報告書 <http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/> EDINET 参照

私たちの通う愛知商業高校では、常日頃から財務会計や管理会計、原価計算などの商業科目を勉強している。

授業の中で、企業の財政状態や経営成績を把握するために必要なことは財務諸表分析であることを学んだ。まずは数値で企業を分析してみようと考え、財務諸表分析を 1 つ目のスクリーニングとして、17 項目という多くの視点から分析することとした。また、有価証券報告書の読み方について授業で学んだ。今回行っていくスクリーニングについては、できる限り有価証券報告書を使ってスクリーニングしていくことに決めた。

※有価証券報告書は、金融商品取引法で規定されている、事業年度ごとに作成する企業内容の外部への開示資料であり、貸借対照表や損益計算書、キャッシュフロー計算書を中心に、財務状況や経営方針が事細かに書かれた非常に信頼度の高い書類である。

私たちはその有価証券報告書の中に記載されている、連結貸借対照表と連結損益計算書などの**連結財務諸表**からデータを用い計算をした

個別財務諸表ではなく連結財務諸表を使った理由は、純粋持株会社は事業を行わないことから、個別財務諸表では売上高が計上されない。このことから売上高に関する財務諸表分析ができない。よって、個別財務諸表では他社との比較が不可能という点が挙げられる。例えばイオン株式会社の場合、純粋持株会社であるため、個別財務諸表では売上高が計上されない。しかし、連結財務諸表では、子会社が売上高を計上しているので、他社との比較ができる。

また、現在多くの上場企業はグループ化しており、企業の本当の状況を知るためには、連結財務諸表がふさわしいのではないかと、みんなの意見から、連結財務諸表を用いて分析することにした。

各分析の点評価基準は次のとおりである。



☆ 安全性分析

(1) 流動比率 短期の支払能力 200%以上が望ましい。

流動比率	200%以上	150%以上	100%以上	100%未満
点数	3	2	1	0

(2) 当座比率 即座の支払能力 100%以上が望ましい。

当座比率	100%以上	75%以上	50%以上	50%未満
点数	3	2	1	0

(3) 自己資本比率 比率が高いほど財務体質が安定している 50%以上が望ましい。

自己資本比率	50%以上	35%以上	20%以上	20%未満
点数	3	2	1	0

(4) 固定比率 固定資産が自己資本でどれだけまかなわれているか 100%以下が望ましい。

固定比率	100%以下	200%以下	250%以下	250%超
点数	3	2	1	0

(5) 負債比率 負債と自己資本の割合をみる。低いほど安全。

負債比率	150%以下	200%以下	250%以下	250%超
点数	3	2	1	0

☆ 収益性分析

(6) 売上高純利益率 この比率が高いほど、収益性が高いことを示す。

売上高純利益率	10%以上	7.5%以上	3%以上	3%未満
点数	3	2	1	0

(7) 売上高総利益率 この比率が高いほど、収益性が高いことを示す。

売上高総利益率	25%以上	18%以上	13%以上	13%未満
点数	3	2	1	0

(8) 受取勘定回転率 高いほど回転日数が短く、回収状況がよい。

受取勘定回転率	25回以上	20回以上	10回以上	10回未満
点数	3	2	1	0

(9) 固定資産回転率 固定資産が会社の中で効率よく使われているかをみる。高い方がよい。

固定資産回転率	2回以上	1回以上	0.5回以上	0.5回未満
点数	3	2	1	0

(10) 自己資本回転率 高いほど、資本の活動が活発であることを示す。

自己資本回転率	3回以上	2回以上	1回以上	1回未満
点数	3	2	1	0

☆ 株価収益性分析

(11) 自己資本利益率 (ROE)

株主資本(株主が投資したお金)が効率良く有効に使われているかが分かる。高いほど、自己資本の収益性が高いことを示し、経営の効率がよい。

自己資本比率	10 % 以上	5 % 以上	0 % 以上	0 % 未満
点数	3	2	1	0

(12) 株価収益率 (PER)

1 株あたりの利益に対して、今の株価は何倍まで買われているかを見る。例えば、PER5 倍では、投資したお金は 5 回企業が利益を出せば元が取れる。低いほど会社が稼ぐ利益に対して現在の株価が割安であることを表している。

株価収益率	20 倍以下	25 倍以下	30 倍以下	30 倍超
点数	3	2	1	0

(13) 1株あたり純資産 (BPS)

企業が解散した時に、資産を処分して債務を返済した後に残る株主の取り分である。企業解散時の解散価値。高いほどよい。

1株あたり純資産	2000 以下	1000 以下	500 以下	500 超
点数	3	2	1	0

(14) 株価純資産倍率 (PBR)

BPS と現在の株価を比べたもので、例えば BPS1000 で株価が 800 なら PBR は 0.8 倍となり、800 円投資すれば万が一その企業が解散しても 1000 円戻ってくることになるので株価は安いといえる。低いほど割安である。

株価純資産倍率	1 倍以下	1.5 倍以下	2 倍以下	2 倍超
点数	3	2	1	0

☆ 成長性分析

(15) 売上高成長率

前期の売上高に対して、当期の売上高がどれだけ伸びているかを判断する指標。高い方がよい。売上高が伸びている場合は、市場の拡大、シェアの拡大、販売単価の高い商品の販売が行われた事になる。

売上高成長率	7 % 以上	1.5 % 以上	0 % 以上	0 % 未満
点数	3	2	1	0

(16) 経常利益成長率

前期の経常利益に対して、当期の経常利益がどれだけ伸びているかを判断する指標。一般に経常利益成長率が売上高成長率を上回っている企業は順調に成長しているとみることができる。

経常利益成長率	10 % 以上及び 売上高成長率以上	10 % 以上ではあるが 売上高成長率以下	0 % 以上	0 % 未満
点数	3	2	1	0

(17) 総資産成長率

前期の総資産に対して、当期の総資産がどれだけ増加したかを判断する指標。一般に総資産成長率が売上高成長率を下回っている企業は、バランスのとれた成長をしている。

総資産成長率	5 % 以上及び 売上高成長率以下	5 % 以上ではあるが 売上高成長率以上	0 % 以上	0 % 未満
点数	3	2	1	0

その結果を表にまとめた。



銘柄 番号	企業名	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)
		安全性					収益性					株式指標				成長性		
		%	%	%	%	%	%	%	回転	回転	回転	%	倍	円	倍	%	%	%
8267	イオン	98	48	23	199	330	1	27	6	2	3	2	35	1,447	2	10	-14	15
9021	J R西日本	69	44	30	286	229	5	10	40	1	2	8	17	4,233	2	2	8	4
7203	トヨタ	109	86	37	53	171	8	10	13	3	2	12	10	5,742	1	6	19	16
9022	J R東海	66	50	40	232	153	16	30	29	0	1	13	13	10,717	2	1	6	1
9048	名古屋鉄道	61	48	27	312	266	3	6	11	1	2	6	23	304	2	-3	5	1
9042	阪急阪神HD	54	23	30	298	236	8	14	9	0	1	8	18	534	1	1	5	-0
9376	ユーラシア旅行	187	169	59	48	69	-1	15	623	6	3	-2	43	579	1	0	-64	-2
3382	セブンアンドアイHD	117	76	46	128	115	4	21	16	2	2	7	26	2,674	2	7	1	9
2651	ローソン	74	57	35	205	190	19	26	0	0	1	12	25	2,656	3	4	4	23
8270	ユニーグループHD	73	48	32	224	216	-0	26	8	1	3	-1	113	1,249	1	-2	-18	0
8028	ファミリーマート	90	70	43	151	134	7	10	15	1	1	9	24	3,012	2	1	-10	13
9726	KNT-CT HD	110	87	19	88	423	-0	17	24	21	18	-5	24	86	3	-3	16	-4
9202	ANA HD	104	70	35	200	187	2	22	12	1	2	5	29	228	2	9	56	6
3232	三重交通グループHD	58	18	24	322	318	3	4	17	1	3	9	14	347	1	-10	-4	1
9005	東京急行電鉄	53	32	29	298	246	4	7	9	1	2	7	23	443	2	-2	6	-1
3398	クスリのアオキ	101	35	34	156	194	4	27	65	4	6	24	27	700	9	18	31	25
9603	エイチ・アイ・エス	200	165	36	83	175	2	18	23	6	5	9	21	1,366	3	9	25	30
9041	近鉄グループHD	54	16	17	476	480	2	5	26	1	4	8	30	167	3	-1	12	-1
4681	リゾートトラスト	257	210	24	253	311	10	85	20	1	1	13	31	778	4	3	20	30
2331	総合警備保障	161	70	55	80	83	4	6	8	2	2	7	30	1,800	3	11	19	9
3692	FFRI	348	342	62	13	63	20	29	3	8	1	19	223	118	76	33	41	58
2326	デジタルアーツ	290	277	75	39	34	16	25	4	2	1	12	31	303	7	12	38	18
4704	トレンドマイクロ	198	177	55	63	83	19	29	4	1	1	15	20	1,117	4	6	11	7
8801	三井不動産	205	25	38	192	163	7	22	44	0	1	5	34	1,894	2	1	13	12
4751	サイバーエージェント	203	166	63	43	59	5	35	7	8	3	15	25	873	5	26	110	24
3632	グリー	443	424	81	22	24	-11	73	11	5	1	-11	1	406	1	-26	-31	-22
2121	ミクシィ	165	160	51	39	95	29	90	7	5	2	62	12	664	7	829	19,940	293
1884	日本道路	177	152	49	50	103	5	13	3	4	2	10	7	814	1	1	22	2
7593	VT HD	88	27	35	172	185	3	20	27	2	4	14	13	263	3	3	-26	13

このようなデータを得ることができた。これを基にポイントヒシ業種ごとに分けるとこのようになった。

銘柄 番号	企業名	業種	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	合計	順位	購入
			安全性					収益性					株式指標				成長性					
1884	日本道路	インフラ	2	3	2	3	2	1	0	0	3	2	3	3	1	3	1	3	1	33	8	☆
8801	三井不動産	インフラ	3	0	2	2	2	1	2	3	0	0	2	0	2	1	1	3	2	26	16	
3398	クスリのアオキ	ショッピング	1	0	1	2	2	1	3	3	2	3	3	1	1	0	3	3	2	31	9	☆
3382	セブンアンドアイHD	ショッピング	1	2	2	2	3	1	2	1	2	2	2	1	3	1	2	1	2	30	10	☆
2651	ローソン	ショッピング	0	1	1	1	2	3	3	0	0	0	3	1	3	0	2	1	2	23	20	☆
8028	ファミリーマート	ショッピング	0	1	2	2	3	1	0	1	1	1	2	2	3	1	1	0	2	23	20	
8267	イオン	ショッピング	0	0	1	2	0	0	3	0	2	3	1	0	2	0	3	0	2	19	24	
8270	ユニーグループHD	ショッピング	0	0	1	1	1	0	3	0	2	2	0	0	2	3	0	0	1	16	25	
3692	FFRI	ネットセキュリティ	3	3	3	3	3	3	3	0	3	1	3	0	0	0	3	3	2	36	3	☆
4704	トレンドマイクロ	ネットセキュリティ	2	3	3	3	3	3	3	0	2	0	3	2	2	0	2	3	2	36	3	
2326	デジタルアーツ	ネットセキュリティ	3	3	3	3	3	3	3	0	3	0	3	0	0	0	3	3	2	35	5	
2331	総合警備保障	セキュリティ	2	1	3	3	3	1	0	0	3	1	2	0	2	0	3	3	3	30	10	☆
7203	トヨタ	交通	1	2	2	3	2	2	0	1	3	1	3	3	3	2	2	3	2	35	5	☆
9022	J R東海	交通	0	1	2	1	2	3	3	3	0	0	3	3	3	1	1	1	1	28	12	☆
7593	VT HD	交通	0	0	2	2	2	1	2	3	3	3	3	3	0	0	2	0	2	28	12	☆
9021	J R西日本	交通	0	0	1	0	1	1	0	3	1	1	2	3	3	1	2	1	1	21	22	☆
3232	三重交通グループHD	交通	0	0	1	0	0	0	0	1	2	3	2	3	0	2	0	0	1	15	27	☆
9048	名古屋鉄道	交通	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	2	2	0	1	0	1	1	12	28	☆
9041	近鉄グループHD	交通	0	0	0	0	0	0	0	3	1	3	2	0	0	0	0	3	0	12	28	☆
9005	東京急行電鉄	交通	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	2	2	0	0	0	1	0	10	30	☆
9603	エイチ・アイ・エス	旅行	3	3	2	3	2	0	2	1	2	3	2	2	2	0	3	3	2	35	5	☆
9376	ユーラシア旅行	旅行	2	3	3	3	3	0	1	3	3	2	0	0	1	3	1	0	0	28	12	☆
9202	A N A HD	旅行	1	1	1	1	2	0	2	1	2	2	1	1	0	2	3	3	3	26	16	☆
4681	リゾートトラスト	旅行	3	3	1	0	0	2	0	2	1	1	3	0	1	0	2	3	2	24	19	
9726	K N T - C T HD	旅行	1	2	0	3	0	0	1	2	3	3	0	2	0	0	0	3	0	20	23	
9042	阪急阪神 HD	旅行	0	0	1	0	1	2	1	0	0	1	2	3	1	2	1	1	0	16	25	
2121	ミクシィ	SNS	2	3	3	3	3	3	3	0	3	2	3	3	1	0	3	3	3	41	1	
4751	サイバーエージェント	SNS	3	3	3	3	3	1	3	0	3	3	3	1	1	0	3	3	3	39	2	☆
3632	グリー	SNS	3	3	3	3	3	0	3	1	3	1	0	3	0	2	0	0	0	28	12	

※右の列に☆が付してある銘柄を購入候補として第三スクリーニングへ移行することとした。

<業種別に分けて順位を決めた理由>

今回、単純に財務諸表分析の点数順で絞り込みを行っていない。それは、JR東海などの、鉄道会社では線路や鉄道などの固定資産が多く、それに比べてmixiなどのSNS企業などはそれらの企業とは対照的に固定資産が少ない。こういった企業同士を同一の判断基準により評価してしまうと、順位に大きな偏りができてしまうからである。

こういった理由から各業種の中での順位を決めその中から 18 社について第三スクリーニングである SWOT 分析に移行することにした。なお、SNSの分野に関しては財務諸表の観点に追加して、ユーザーの多さや利用度についても加味して第三スクリーニングに移行している。

第三スクリーニング

<SWOT分析>

第三スクリーニングではSWOT分析とCSR分析を行った。

SWOT分析とは



- ・「強み」である strength
- ・「弱み」である weakness
- ・「機会」である opportunity
- ・「脅威」である threat

の頭文字をとって並べたものである

「強み」「弱み」は企業の内部環境を分析し、

「機会」「脅威」は企業の外部環境を分析する。

この分析により、ミクロとマクロの両面より企業を分析することができる。

SWOT・CSR分析を行った理由

企業をSWOT分析で多くの視点から分析を行うことでその会社の内外の重要な要点を特定することができ、

また、CSR分析を行うことで会社が活動する上で利益以外の社会貢献活動を知ることができるからである。

SWOT 分析出典:

<https://swot.jp/company/comp/jr-central/> (就活 SWOT)

これを基に第二スクリーニングで選んだ 18 社をSWOT分析し、表にまとめた。

銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
4751	サイバーエージェント	強み ・高い開発力(アプリ等)。 ・ユーザー層が課金に慣れた可処分所得の高い30代が40%を占めているため、利益を得やすい。 ・スマートフォン関連事業に経営資源を集中させている。 機会 ・インターネットが普及している今日、利用度が高まっている。 ・スマートフォンゲーム市場が拡大している。 ・SNSの利用度の増大。 ・情報化社会の進展。	弱み ・課金収入が減少してきている。 ・課金による収入が得られにくい。 ・技術革新や顧客ニーズの変化のサイクルが極めて早い為それに対応できなかった場合、経営成績に大きな影響 脅威 ・ウイルスによる攻撃。 ・当社のSNS等のサービスによるトラブル。 ・景気変動の影響を受けた場合に、売上が減少する。 ・主なターゲットである子どもの数が減少している。	・小学生向けプログラミング教室開講。 ・社会人向けの企業化育成講座。 ・女性の働きやすい環境づくり。
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
1884	日本道路橋	強み ・歴史の長い企業であるため、ネームバリューがある。 ・政府建設投資は15ヶ月予算編成とその早期実施の取組効果が発現したことにより、2年連続20兆円を上回る水準となる見通しで業績が推移した。 機会 ・原油安や低金利など良好な企業経営環境の持続や、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかな回復傾向が持続している。 ・東京オリンピック開催によるインフラ整備の強化。	弱み ・平成26年10月に不適切な会計処理が判明し、また平成27年1月28日に独占禁止法違反の疑いがあるとして公正取引委員会の立ち入り調査を受けた。更なる法令順守体制の徹底に努める必要がある。 脅威 ・官公庁発注建設工事の事業量が予想以上に縮減された場合、業績に悪影響を及ぼす可能性がある。 ・重油等の価格変動による費用上昇の可能性。	・道路をはじめとする交通インフラを支え、社会基盤の整備に最新の技術で貢献している。 ・また、中学生職場訪問学習の受け入れなど次世代育成活動を積極的に行っている。

銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
3398	クスリのアオキ	強み ・北信越(石川県、富山県、福井県、新潟県、長野県)を中心に、群馬県、岐阜県、滋賀県、愛知県、埼玉県、三重県へと出店エリアを広げる ・生活習慣病の予防をテーマにしたセミナー ・調剤薬局併設による集客力の増大。	弱み ・北陸、東海以外に店舗がない。 ・他のドラッグストアと比較して知名度が低い。	・マイパック持参運動燃やしても有害物質が発生せず、再生原料を10%以上使用したポリエチレン製のレジ袋を導入
		機会 ・少子高齢化や医療費高騰問題。 ・自動車社会の進展による郊外店舗の集客力増大。	脅威 ・同業他社との出店競争や価格競争および規制緩和による他業態との競合。 ・平成21年6月の旧薬事法の改正に伴う他業種の参入。 ・消費税増による消費者の購入意欲の低下。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
3382	セブンアイHD	強み ・個店が稼ぐ力(売り上げ能力)が他社に比べて強い。 ・毎週品揃えを変えることで、変化していく顧客のニーズに合わせている。 ・プライベートブランド、セブンゴールドがある。 ・優秀なアルバイトの育成。 ・自社製品の企画力が優れている。	弱み ・コンビニ事業は好調だが、他の事業の赤字が続いている。 ・商品はいいが、価格が高い。	・商品・サービスの安全対策・品質管理に万全を期し、事故やトラブルを未然に防ぐ。地域の生活環境に配慮し、交通、騒音、臭気などの問題に取り組むことで、地域住民と良好な関係を築く。
		機会 ・昇龍道や伊勢志摩サミットによるインバウンドで、売上の増加が予想される。 ・高齢化にはなっていくが、コンビニ世代が高齢化することによる売上の増加。 ・コンビニ業界全体の底上げ。	脅威 ・消費税が上がることによって国内の消費が低迷する恐れがある。 ・ファミリーマートとサークルKの統合。 ・コンビニが飽和状態。 ・スーパーマーケットの長時間営業。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
2651	ローソン	強み ・「Loppi」チケット販売、音楽・映像商品の輸入・販売。 ・ATMの設置。 ・HMVを買収したことによる音楽・映像ソフトの品揃え強化。 ・日本郵政公社と提携。店内の郵便ポスト、切手・ハガキ、収入印紙、レターパックの販売。 ・ウチカフェのスイーツで若い女性をターゲットに。	弱み ・セブンイレブンに日販水準で大きく下回る。 ・店舗数では業界第3位に転落。 ・人口の多い首都圏での店舗数が少ない。	・国産原材料を調達しメニュー化 ・冷し麺容器、サラダ容器におけるバイオ容器の採用
		機会 ・医薬品の規制緩和による販売品目の拡大。(ローソン・マツキヨの共同店舗のオープン) ・高齢者向けの店舗作り(少子高齢化) ・コンビニ業界全体の底上げ。	脅威 ・コンビニ業界が飽和状態となっている。 ・ファミリーマートとサークルKサンクスとの統合。 ・ドラッグストアの進出などによる顧客離れ。 ・スーパーマーケットの長時間営業。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
3692	FFRI	強み ・専門性の強い人材力。 ・政府機関や大手企業等への豊富な採用実績。 ・ソフトの力が強い。 ・インパクトのあるテレビCM。	弱み ・平均勤続年数が2.7年と短く、社内環境がよいとは言えない。 ・トレンドマイクロなどと比較して、知名度が低い。	特になし
		機会 ・海外への市場が現在、日本は10%と少ないので、拡大の余地がある。 ・スマートフォン市場拡大によるセキュリティ需要の増大。 ・情報化社会の進展。	脅威 ・海外経済の下振れなど依然リスクが存在する。 ・常に新たな脅威(ウイルス)などが出現している。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
2331	ALSOK	強み ・ALSOKによるネームバリュー。 ・機会警備業務が主な収益源。先行投資はすでに済んでいるため、これから安定的な収益が望める。 ・常に需要のある業界。金融機関を中心とした堅実な会社を顧客として持っている。	弱み ・売上は、金融機関に対する割合が多いため(20%)、これから金融機関を取り巻く経済環境の動向によって大きく影響される。	・国に多くの事業所(施設)と業務用車両を保有していることから、2009年度より環境中長期計画を設け、電力使用量および車両運行に関する燃料使用量の削減に、全社を挙げて取り組んでる。その結果7.7%の削減に成功した。
		機会 ・伊勢志摩サミットや東京オリンピック開催による警備需要の向上。 ・スマートハウスと警備システムとの連携による顧客増。	脅威 ・今日、IT分野のセキュリティの需要が高まってきているなかで、IT技術の革新や導入に遅れた場合、当社の業績に大きく影響を与える恐れがある。 ・国内事業がほぼ飽和状態になっている。	

銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
7203	トヨタ	強み ・世界に誇る日本の大手自動車メーカーである。 ・日本のシェア率51%。 ・財務体質が強固である。 ・フルライン構成(すべての顧客のニーズに合わせた製造販売が可能)。 ・ハイブリッドの量産で先行して一人勝ちとなっている。	弱み 急速に拡大した為、生産-販売間の連携の悪さなど 大企業病の兆候が見え始めている ・2009～2010年、複数の地域、複数のモデルで大規模リコールが頻発し、内外で社会問題となった。 ・海外販売の依存が高く、為替変動により利益の安定化が図りにくい。	・ハイブリッド自動車や低燃費自動車の開発・販売によって社会・地球の調和の取れた持続可能な発展に率先して貢献している。
		機会 ・資源国・新興国市場が成長している。 ・ガソリン価格の高騰および環境意識の向上から、低燃費車の需要が急拡大している。 ・日本経済が好調であること。	脅威 ・資源国・新興国市場において、世界の主要メーカーや地場メーカーを巻き込んだ、小型車・低価格車の競争が本格化している。 ・車を所持する意識が変わり、また情報、物がありふれていて物欲が多様化し車に憧れる人が減っている。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
9022	JR東海	強み ・強固な収益体制に立脚した財務基盤。 ・ドル箱路線(東海道新幹線)の保有。新幹線はJRだけが保有しているので他に競争相手がいない。	弱み ・東海道新幹線に大幅依存している。 ・JR東西に支払う乗車券の販売手数料。 ・名古屋を中心とした自動車強い地域からか、在来線の収益は少ない。	・東名阪の大動脈にして日本経済を動かす東海道新幹線を経営しており、また超電導リニアによる中央新幹線計画も進んでいる。 ・名古屋駅では高層複合ビルJRゲートタワーの開発が進んでおり、より利便性の高い魅力的な都市開発に貢献している。
		機会 ・新興国での新幹線導入。 ・訪日外国人の増加。 ・リニア中央新幹線による、輸送力強化による収益力の向上。	脅威 ・格安航空会社の進出・隆盛。 ・第二東名高速道路の完成。 ・北陸新幹線の開通計画。 ・高速道路の無料化。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
7593	VTHD	強み ・新車ディーラー事業に転換したが、一店舗の利益率アップではなく拠点数拡充による利益率アップを選択し、M&Aにより事業規模の拡大を図ってきたその結果売上高が向上した。	弱み ・東証一部への上場が2015年5月と最近であり、知名度が低い。 ・財政基盤や経営ノウハウの不足など。	特になし
		機会 ・車社会によるディーラーの需要増加。 ・女性の社会進出に伴った女性客の増加。 ・中古車の重要増加。	脅威 ・若者の自動車離れ。 ・格安航空券の登場や鉄道業界の新プランによる客足低下。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
9021	JR西日本	強み ・たくさんの方が集まる関西圏の駅を所有しているからこそ、そこに集まる人向けにビジネスを展開できる。 ・icocaの普及により、加盟店利用分からは手数料収益、ビューカード利用分からは手数料収益が得られる。 ・自社でもクレジットカードを発行しており、輸送事業以外にも順調に収益をあげている。	弱み ・天災による運行不通が多い。 ・過疎区間が多く無駄がある。 ・規模が大きすぎて身動きが取れないので、改善点を思いいついてもすぐには対応できない。	・「企業理念」は、福知山線列車事故を機に、「安全を最優先する企業となる」「重大な事故を二度とおこさない」という決意のもと、全役員・社員で議論を重ね、社会に対して約束したものであり、社会の信認に応え、「企業理念」を実践することそのものが「JR西日本のCSR」である。
		機会 ・東京オリンピックによる訪日外国人の増加。 ・日本を代表する観光地、京都・大阪・神戸がある。	脅威 ・人口の多い京阪神地区は、戦前より「私鉄大国」と呼ばれるほど私鉄が多く、またJR西日本の展開エリアでは自動車が広く普及しているので代替手段が数多く存在している。 ・人口減少による乗車率減。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
3232	三重交通GHD	強み ・貸切バスでは、運賃・料金改正により生産性が向上。 ・運輸業の信用力を核に、東急ハンズFC事業やメガソーラー事業、ビジネスホテル事業など、事業の多角化。	弱み ・前期に神宮式年遷宮が行われた伊勢志摩地域への来訪者の減少。	・地元の方々と一緒に、世界遺産「熊野古道」清掃ウォークというボランティア活動を行っている。ノンステップバスやリフト付観光バスを導入し、バリアフリーへの取り組みを推進している。
		機会 ・政府の経済政策や日本銀行による金融政策の効果により緩やかな回復基調が続いた。 ・伊勢志摩サミット開催により注目が高まったことによる観光客の増加。	脅威 ・少子高齢化や地域人口の減少により、バス利用者の現象などが起きる可能性がある。 ・東急ハンズでの収益(名古屋)が大きい。	

銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
9048	名古屋鉄道株式会社	強み ・固定資産が多く強固な収益体制に立脚した財務基盤。 ・東京、名古屋、大阪という日本の三大都市間を高速移動するための手段として不可欠な存在。	弱み ・東海という名古屋中心を中心とした自動車が強地域のために在来線の利益が少ない。	・地域と地球の環境を守るために、これからも環境負荷軽減に向けた省エネルギー対策が行われている。
		機会 ・訪日外国人の増加。 ・リニア中央新幹線の建設により、名古屋圏へ訪れる人が増える。 ・新興国での新幹線導入。 ・名古屋地域の景気が好調。	脅威 ・第二東名高速道路の完成。 ・大きな地震による被害が甚大である。 ・格安航空会社の進出・隆盛。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
9041	近鉄GHD	強み ・天候悪化の遅れや運休が少ない。 ・技術部門のほとんどが直営である。 ・固定資産が多く、財政基盤がしっかりしている。 ・新設備アペナルカスの設置。	弱み ・車社会による、利用率の低下。 ・国内事業がない。 ・関西圏の私鉄競争の激化。	・騒音、振動、水質汚濁、大気汚染など従来型公害に関する対策について推進を図っている。 ・地球環境の保護・資源保護に取り組むため、環境にやさしい資材を優先的に購入することを、資材部の「購買事務執務要領」に定め、グリーン調達に取り組んでいる。
		機会 ・東京オリンピックにより、訪日外国人の増加。 ・旅行需要の増加。 ・伊勢志摩サミット開催により注目が高まったことによる観光客の増加。	脅威 ・原子力発電所運転停止に伴う電力不足の影響。 ・大規模災害または大規模事故の発生。 ・景気、個人消費動向の変動。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
9005	東京急行電鉄株	強み ・東急ストアや、東急東横線、東急目黒線、東急田園都市線、東急大井町線、東急池上線、東急多摩川線、東急こどもの国線、東急世田谷線という数多くの鉄道を持っている。 ・事業基盤である沿線地域は、このような高い競争力と、将来への大きな可能性を持っている。	弱み ・有料特急も通勤ライナーもなく、自社線には長距離と言える区間もなく、異形式車種との併結や分割・併合もない。 ・田園都市線の混雑を抜本的に解決できない。	・環境マネジメントシステム「東急電鉄エコアッププログラム」により、66の事業所において、86の目標を掲げ環境負荷低減に取り組むなどの環境保護活動。
		機会 ・東京オリンピックにより、訪日外国人の増加。 ・旅行需要の増加。 ・東京オリンピックの時の利用量が大幅に増加する。	脅威 ・エコカーやハイブリッド車の開発によりエコ思考の客が流れていってしまう。 ・東京を中心とする交通機関なので、事故やテロが発生すると大損害を被る。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
9603	株式会社HIS	強み ・2010年10月期中、海外拠点を100ヶ所から最高150ヶ所に増える。 ・海外旅行に関するノウハウがある。 ・海外旅行取扱高 旅行業界第2位。 ・海外格安という独自の路線。 ・販売スタッフが企画担当者と密接につながっており、変更の希望などに対し即座に対応が可能。	弱み ・2000年ごろから渡航者数が伸びていない。 ・国内旅行の取り扱いが少ない。 ・国内旅行に関するノウハウが少ない。 ・格安のイメージで若年層をターゲットとしてきたため、60代以降の認知度、利用率が低い。	・カーボンオフセット(排出された二酸化炭素などの温室効果ガスの削減活動によって吸収しようとする活動) ・エコツアーの実施。
		機会 ・戦後の日本経済成長により、金銭的余裕ができ旅行の需要が増えた。 ・景気が良くなったことによる、余暇需要の増大。	脅威 ・少子高齢化。 ・戦争、テロ、疾病、自然災害、景気後退、デフレによる旅行者減少。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
9376	ユーラシア旅行株	強み ・遺跡・自然・伝統文化など知的好奇心を満足させるオリジナルツアー。 ・他の旅行会社にはないユニークな企画でリピーターを増やしている。 ・60代を中心とした熟年層の旅行者をメインターゲット。	弱み ・若者の参加が少ない。 ・日本国内のツアーが少ない。	・ケニア応援キャンペーン
		機会 ・経験者からの口コミ。 ・日本企業が好調であること。	脅威 ・海外の政治情勢、戦争、紛争、テロ事件、自然災害等の影響。 ・外国為替相場の変動。	
銘柄番号	銘柄名	SWOT		CSR
9202	ANAHD	強み ・国内認知度が高い。 ・燃費のよい航空機。 ・企業イメージ、ブランド力。	弱み ・日本国外におけるブランド力、販売力の不足。 ・巨額の設備投資が必要。 ・年々客室乗務員の待遇が下がっている。(人材不足)	・飛行機のエコ燃料の研究と開発支援。 ・排気ガスの少ない航空機の導入。 ・グローバル対応のできる人材の育成。
		機会 ・ATI(独占禁止法適用除外)の認可が得られたこと。 ・JALの破綻。 ・旅行需要の増加。 ・空港の拡張。	脅威 ・JRIによる、リニア中央新幹線の建設。 ・円安により海外旅行者が減少。 ・新型インフルエンザなど。 ・LCAの台頭。	

第四スクリーニング

<班内ディスカッション>

第四スクリーニングでは、班内でSWOT分析やCRS分析を行ったデータをもとに班員で

昇龍道プロジェクトとの関連度
伊勢志摩サミットとの関連度
投資家目線
CSR 目線
企業の社員目線

これらの5項目について、班員一人ずつ各企業にポイントをつけ、順位ごとに並べ替えそれを元にディスカッションを行った。そして18企業のうち点順位をもとにディスカッションを行った結果、下記表の☆を付している銘柄14企業を購入することとした。単純に得点の高い企業から購入するのではなく、業種のバランスも考慮し、購入銘柄を決定した。

企業名	業種	昇龍道	伊勢志摩	投資家	CSR	社員目線	合計	購入
トヨタ	交通	6	5	7	8	6	32	☆
JR西日本	交通	8	7	5	6	6	32	☆
三重交通GHD	交通	6	7	5	6	7	31	☆
JR東海	交通	7	4	7	7	5	30	☆
ANAHD	旅行	8	3	6	8	5	30	☆
近鉄GHD	交通	6	7	3	6	7	29	☆
HIS(株)	旅行	6	5	7	5	6	29	☆
ALSOK	セキュリティ	1	8	6	8	6	29	☆
名古屋鉄道株式会社	交通	6	6	4	5	7	28	☆
セブン	ショッピング	7	6	6	6	2	27	☆
日本道路	インフラ	5	5	6	4	5	25	☆
薬のアオキ	ショッピング	7	2	6	6	4	25	☆
サイバーエージェント	sns	7	2	6	6	2	23	☆
ユーラシア旅行株式会社	旅行	4	2	4	3	4	17	
VTHD	交通	4	4	3	0	4	15	
FFRI	ネットセキュリティ	1	6	7	0	1	15	☆
ローソン	ショッピング	2	2	4	4	2	14	
東京急行電鉄	交通	0	2	4	3	5	14	

<購入株式数の決定>

私達が当初考えていた株式購入数は右表のとおりであった。私達は日経ストックリーグに参加するために1学期の授業で株式に関する用語やシステム、チャートの見方、その他の株式に関する知識を学んできた。授業で実際の株式投資は単元株数で取引をしなければならないことを学んだ。

日経ストックリーグのシステムは単元株数に関係なく、1株から購入できるが、私たちはよりリアルな株式投資に近づけるため、右表のような**最低単元株数**での購入を考えた。しかし、最低購入単位で購入をしてみようと合計金額が500万円を大幅に超過してしまうため、この購入方法をあきらめ、**企業の株式購入割合はポイントの総得点に占める割合で求めた。**

企業名	得点	得点平均	購入額(円)	最低購入株数
サイバーエージェント	23	5.8	522,000	100株
日本道路	25	6.3	626,000	1000株
薬のアオキ	25	6.3	632,000	100株
セブン	27	6.8	583,100	100株
FFRI	15	3.8	842,000	100株
総合警備保障株式会社	29	7.3	567,000	100株
トヨタ	32	8.0	764,400	100株
JR東海	30	7.5	2,277,500	100株
JR西日本	32	8.0	831,200	100株
三重交通GHD	31	7.8	47,400	100株
名古屋鉄道株式会社	28	7.0	500,000	1000株
近鉄GHD	29	7.3	488,000	1000株
HIS(株)	29	7.3	403,000	100株
ANAHD	30	7.5	362,000	1000株
計	385		9,445,600	

例) サイバーエージェントは23ポイント 企業総得点385ポイント→ $23 \div 385 \approx 5.80\%$

購入資金500万円を大幅に超過

こうして4段階にわたるスクリーニングを得て完成したポートフォリオが以下である。

【3-2】 3-1のスクリーニングによって決定した具体的な投資先企業を以下の表に記めよう(500 万円分の仮想資金で10 銘柄以上、最大 20 銘柄)。そして組み上げたポートフォリオ(ファンド)に名前を付けてみよう。

ファンド名

昇龍道、伊勢志摩サミットインバウンド招致応援ファンド

業種	銘柄番号	銘柄	上場市場	購入割合(%)	購入額 (円)
SNS	4 7 5 1	サイバーエージェント (株)	東証一部	5.80%	290,000
インフラ	1 8 8 4	日本道路 (株)	東証一部	7.90%	395,000
商業	3 3 9 8	(株) 葉のアオキ	東証一部	6.30%	315,000
商業	3 3 8 2	(株) セブン&アイ・ホールディングス	東証一部	6.90%	345,000
セキュリティ	3 6 9 2	(株) FFRI	東証マザーズ	3.80%	190,000
セキュリティ	2 3 3 1	ALSOK	東証一部	7.40%	370,000
交通・商業	7 2 0 3	トヨタ自動車 (株)	東証一部	8.10%	405,000
交通	9 0 2 2	東海旅客鉄道 (株)	東証一部	7.60%	380,000
交通	9 0 2 1	西日本旅客鉄道 (株)	東証一部	8.10%	405,000
交通	3 2 3 2	三重交通グループホールディングス (株)	東証一部	7.90%	395,000
交通	9 0 4 8	名古屋鉄道 (株)	東証一部	7.10%	355,000
交通・商業	9 0 4 1	近鉄グループホールディングス (株)	東証一部	7.40%	370,000
旅行	9 6 0 3	(株) エイチ・アイ・エス	東証一部	7.40%	370,000
旅行	9 2 0 2	ANA ホールディングス (株)	東証一部	7.60%	380,000

※株価は2015年11月26日(木)の終値で購入している。

ファンド名の「インバウンド」とは訪日外国人であり、昇龍道プロジェクトにも伊勢志摩サミットにも関係してくる。そういった昇龍道プロジェクトや伊勢志摩サミットなど日本を活気づけるイベントに参加し、間接的又は直接的にインバウンドを招致する企業を応援したいという思いを込めて

「昇龍道、伊勢志摩サミットインバウンド招致応援ファンド」と名前を付けた。

【3-3】ポートフォリオを構成する各銘柄の値動きをチェックし、気付いたことをまとめよう。

長期チャートと短期チャートでの比較

私たちは、購入決定した銘柄について、値動きについて分析してみた。分析にあたり、どのくらいの期間で分析するか悩んだが、長期と短期とでは、値動きに違いが出てくるかもしれないと考え、両方について分析してみることにした。また、長期については、売上高の伸びと、純利益の伸びと株価の伸びに関連性があるかどうかを調べてみた。また、短期では、以前授業で学習したチャートの分析を行い、今後その株価がどのように推移していく可能性があるか考察してみた。また、最近の企業ニュースも調べてみることにした。

証券コード:4751

銘柄名:株式会社サイバーエージェント

長期チャート (直近5年)



右肩上がり。

有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が212%、当期純利益が174%の伸び率に対し、株価も353%の伸び率がある。売上に対する利益の伸び率が乏しい。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、ゴールデンクロスが発生しているため、今後株価が上がる期待される。

15年9月期はアメーバ、インターネット広告、ゲームの各事業が好調で増収したため、株価が上昇。

証券コード:1884

銘柄名:日本道路株式会社

長期チャート (直近5年)



右肩上がり。

有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売り上げが125%、当期純利益が349%の伸び率に対し、株価が300%上がっている。経営の効率化が窺える。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、10月中旬にゴールデンクロス、12月初旬にデッドクロスが発生しているため、今後、どちらの方向に向かっていくのか注目される。

建設事業での採算向上に伴い、利益率が改善。

証券コード:3398

銘柄名:株式会社クスのアオキ

長期チャート (直近5年)



現在、5年前より約30倍株価が上がっている。

有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が209%、当期純利益が503%の伸び率に対し、株価が3095%も上がっている。経営は順調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、3か月間でゴールデンクロス、デッドクロスが2回ずつ発生している。11月下旬にゴールデンクロスが発生しているため、今後株価が上がる期待される。

食品や調剤の2部門が伸び、既存店売上高が好調に推移している。

証券コード:3382

銘柄名:株式会社セブン&アイ・ホールディングス

長期チャート (直近5年)



有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が 118%、当期純利益が 154%の伸び率に対し、株価が 275%上がっている。堅実な経営であるといえる。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、10月下旬にゴールデンクロスが発生しているが、ここ2週間くらいの株価が下がり始め、25日線も割ったので今後、どちらの方向へ向かうか注目される。中東地域へ初出店。超高齢化時代を迎えるに当たり、シニアの働き手を増やしている。

証券コード:3692

銘柄名:株式会社FFRI

長期チャート (直近5年)



有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が 270%、当期純利益が 666%の伸び率に対し、株価が 667%上がっている。売上と当期純利益より経営は好調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、9月中旬にデッドクロスが発生しており、更にその後も低迷が続いたが、最近になってから急激に株価が上がり始めたので、今後株価が上がると期待される。
CM 広告の効果。サイバー・セキュリティ対策製品を販売。製品販売はサブスクリプション(一定期間の利用に対して、代金を支払う方式)中心でストック収益化。

証券コード:2331

銘柄名:ALSOK

長期チャート (直近5年)



有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が 131%、当期純利益が 288%の伸び率に対し、株価が 667%上がっている。株価の伸び率は好調で、経営も順調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、地道に株価が伸びている。25日線を大きく切ることはなく、堅調な値動きを見せている。
東京オリンピックの警備の必要性で株価が上がっているのではないかと。

証券コード:7203

銘柄名:トヨタ自動車株式会社

長期チャート (直近5年)



有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が 143%、当期純利益が 514%の伸び率に対し、株価が 238%上がっている。利益の伸び率より経営は順調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、11月中旬にゴールデンクロスが発生している。また、25日線に支えられている。
2014年12月に発売した燃料電池車「ミライ」の国内での受注台数が、発売から1年で3300台超になった。発売当初の国内の販売目標は年400台であった。

証券コード:9022

銘柄名:東海旅客鉄道株式会社

長期チャート (直近5年)



有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が 111%、当期純利益が 197%の伸び率に対し、株価が 338%上がっている。経営は堅調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、11月上旬にゴールデンクロスが発生し、順調に株価が上がり続けていたが、最近下がり始めた。今後の株価動向に注目である。4～9月期の東海旅客新幹線を主力とする運輸収入が過去最高を更新。名古屋駅の利便性向上に向けて、乗り換え広場「ターミナルスクエア」を計画。

証券コード:9021

銘柄名:西日本旅客鉄道株式会社

長期チャート (直近5年)



有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が 111%、当期純利益が 191%の伸び率に対し、株価が 257%上がっている。経営は堅調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見ると、9月中旬にデッドクロス、11月中旬にゴールデンクロスが発生しているが値動きが激しいため、今後、どちらの方向に向かうか注目である。今期経常を7%上方修正・最高益予想を上乘せ、配当も10円増額。

証券コード:3232

銘柄名:三重交通グループホールディングス株式会社

長期チャート (直近5年)



有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が98%、当期純利益が188%の伸び率に対し、株価が104%上がっている。経営は順調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



短期的に見て、9月中旬にゴールデンクロスが発生しており、堅調に推移している。
バス事業は原油価格の下落による燃料費の減少により収支改善。

証券コード:9048

銘柄名:名古屋鉄道株式会社

長期チャート (直近5年)



有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が100%、当期純利益が198%の伸び率に対し、株価が218%上がっている。経営は順調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



9月下旬から10月初旬に、2度デッドクロスが発生しているが、すぐにゴールデンクロスが発生し、持ち直している。
名古屋鉄道の「ミューターポイント」と中部電力の家庭向けウェブ会員サービス「カテエネ」のポイントが連携。
東海旅客鉄道と名古屋市とともに「ターミナルスクエア」を計画。

証券コード:9041

銘柄名:近鉄グループホールディングス株式会社

長期チャート (直近5年)

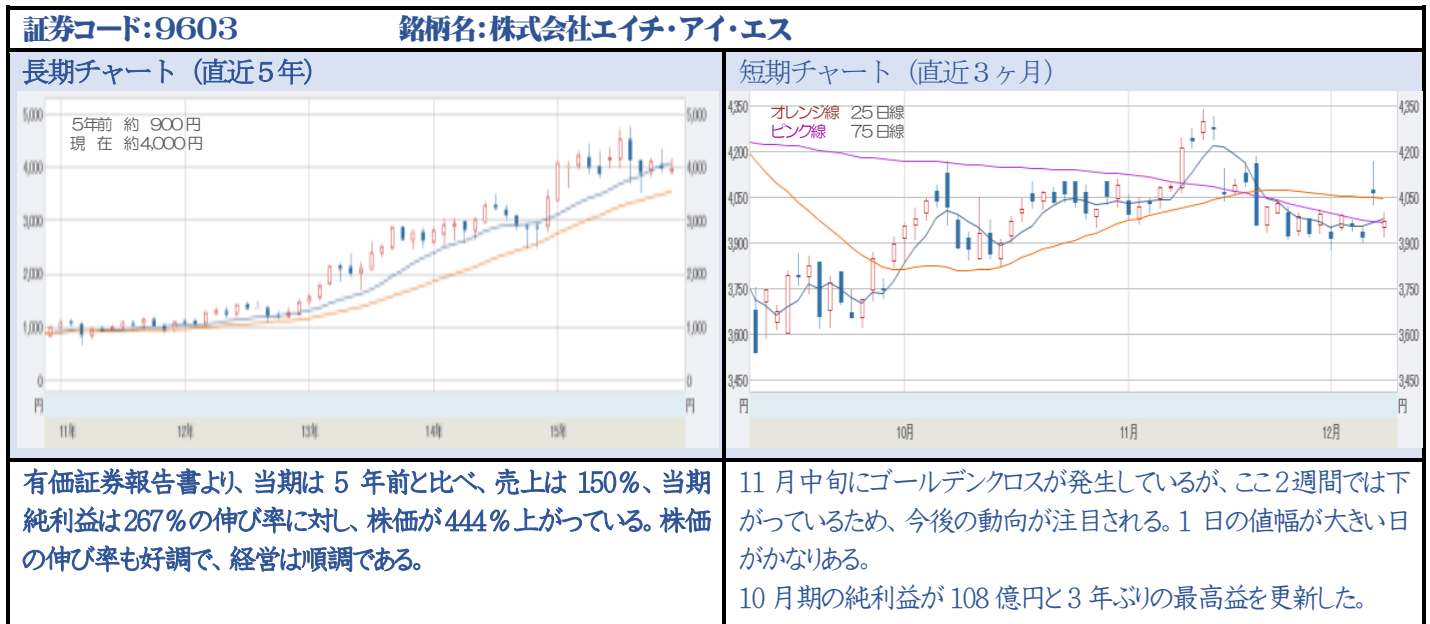


有価証券報告書より、当期は5年前と比べ、売上が129%、当期純利益が194%の伸び率に対し、株価が192%上がっている。経営は堅調である。

短期チャート (直近3ヶ月)



9月中旬にデッドクロス、10月初旬にゴールデンクロスが発生している。株価は順調に上がり続けている。
百貨店や旅行子会社が振るわず純利益は減収していたが、国内外の観光客が増えて、鉄道旅客人数は2%増えた。



< 株価の動きについてのまとめ >

5年間チャートより

2008 年のリーマンショックの後、世界経済は深刻な景気後退に陥っていたが、日経平均株価が3年前から上昇をはじめ、ほとんどの企業がその動きに合わせ、順調に上昇している。

5年間の売上高・当期純利益の分析によって、売上高の上昇に対して、当期純利益の上昇が著しいので、どの企業もコストを削減し、利益を出しやすい体質になっていることがわかる。

3か月チャートより

日経平均株価が2万円を達成したところから、どの企業も株価の伸びが鈍くなり、下落している。日経平均が今後どのような方向へ向かっていくかが注目である。

ショッピング分野のクスリのアオキ、セブン&アイ・ホールディングス。

交通分野のトヨタ自動車、東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道、三重交通グループホールディングス、名古屋鉄道、近鉄グループホールディングス。

旅行分野のエイチ・アイ・エスと ANA ホールディングス。どれも分野ごとに同じような株価の動きとなっている。

4 投資家へのアピール

【4-1】自分たちが作成したポートフォリオ(ファンド)への賛同者を増やすために、投資家向けにアピールしよう。

投資家へのPR

<インカムゲイン>

まずは、私たちが構築したポートフォリオの銘柄の直接的な利益についてアピールをしたいと思う。直接的な利益としては、株主配当、株主優待が主なものとして挙げられる。NISA口座で取引をしている人は、配当金や株主優待を目的として投資している人も多い。これらの詳細については下記の通りである。

(1) 株主優待・配当利回り

株主優待と配当利回りについては下記の通りである。これを見ると株主優待はレストランやホテルなどのレジャー施設の料金割引が多いことがわかる。私たちが選んだ企業は、昇龍道プロジェクト、つまり観光業で活躍していくであろう企業である。よって、これから発展していく観光をお得に楽しめる。

企業	配当金(%)	株主優待
サイバーエージェント	0.96	
日本道路	2.64	
クスリのアオキ	0.21	100株 株主優待カード 所持株数に応じて地元名産品がもらえる
セブン&アイHD	1.44	
FFRI	項目なし	
総合警備保障株式会社	0.71	
トヨタ	一株当たり200円	
JR東海	0.57	所持株数に応じて運賃・料金割引券の配布
JR西日本	1.77	所持株数に応じて運賃・料金割引券、レストラン割引券、ホテル割引券の配布
三重交通GHD	1.29	所持株数に応じてグループ優待券の配布
名古屋鉄道株式会社	1.05	所持株数に応じて運賃・料金割引券、レストラン割引券、ホテル割引券の配布
近鉄GHD	1.07	所持株数に応じて運賃・料金割引券、レストラン割引券、ホテル割引券の配布
HIS	0.68	ハウステンボス、ラグーナテンボスの料金割引券
ANAHD	1.44	所持株数に応じて搭乗運賃割引、提携ホテル優待券

<スクリーニング>

続いて、私たちのスクリーニングの信頼性についてアピールしたいと思う。株式を購入するにあたり、信頼できる企業に投資したいものだ。私たちは4つの段階に渡ってスクリーニングをしてきた。様々な視点からスクリーニングを行ってきた。それらのスクリーニングで絞り込んできた企業は、私たちが自信を持っておすすめできる企業である。スクリーニングについて投資家の信頼性を確保するために考えてきたことを以下に述べていこうと思う。

(1) 第一スクリーニング

- ① インターネット等による関連銘柄探し
- ② 29企業選択

— 昇龍道と伊勢志摩サミット —

第一スクリーニングでは、投資テーマを「昇龍道と伊勢志摩サミット」に定め、それらの関連企業を探し出した。その作業にあたって、中部運輸局を訪問、また新聞等のメディアから情報を集め、選んでいった。

インターネットの情報だけで判断せず運輸局に訪問するなど、教室から出た情報収集を行うことで、広い視野での情報収集ができた。そのため、企業はもれなく選択できた。

(2) 第二スクリーニング



— 意義 —

第二スクリーニングでは、財務諸表分析を有価証券報告書によって行った。財務諸表分析を行う意義は2つあげられる。

- ① 財務諸表分析を行うことによって、数字による正確な分析結果を出す。
- ② ミクロ的視点で分析する。

— 信頼性と有価証券報告書 —

上記の中で投資するにあたって重要なのは②である。個人の意見だけでは、それまでの企業へのイメージなど、正確性および信頼性に欠ける情報での判断となる。そこで財務諸表分析が役に立つ。個人の主観の介入がない数字での分析であるため、**正確性と信頼性が高いと言える**。更に私達は、**正確性と信頼性を高めるため「有価証券報告書」を用いて分析を行った**。理由としては、株式会社は各事業年度終了後、3カ月以内の金融庁への提出が義務付けられている正式書類であるため信頼性が高いからである。

これらのことから、私達が分析した結果は、正確性・信頼性ともに非常に高いものになっている。

(3) 第三・四スクリーニング



— 意義 —

第三スクリーニングでは、SWOT 分析と CSR によって分析した。これらの意義としては2つある。

- ① 企業の数字には表れない価値や脅威を分析する。
- ② マクロ的視点で分析する。

— ① について —

先に行った財務諸表分析は数字での判断であるのに対し、ここで行いたいのは数字では表れない企業価値の分析である。そこでSWOT 分析と CSR 分析を行った。

しかし、ここで注意したいポイントとして、「個人の主観のみでの分析になってしまう」という点、つまり情報が偏り、事実性が薄れる点である。

そこで私達はインターネットや企業 HP だけでなく「有価証券報告書」も分析に用いることにした。これにより高い信頼性が保たれた。

— ② について —

企業分析をするとなるとミクロ的視点に偏りがちである。しかしこれでは正確に分析したとは言えず、投資家にアピールする際に信頼性に欠ける。そこで今回の分析をすることで、先の分析でミクロ的視点を、今回の分析でマクロの視点をカバーでき、広い視点での分析ができた。

— まとめ —

全てのスクリーニングにおいて、正確性や信頼性の高い分析となるよう努力し、ミクロとマクロの視点で分析することを心掛けた。私たちの「昇龍道プロジェクト」に関する銘柄は長期の投資になることが予想されるため、長期的な目線でスクリーニングを行った。よって投資家には安心して投資していただけたと考える。

5 日経STOCKリーグを通して学んだこと

【5 - 1】日経STOCKリーグを通して学んだことをまとめよう。

昇龍道の課題とその将来性

(1) 外国人旅行者が少ない日本

まず初めに、昇龍道プロジェクトの伸び代、つまり、成長性はあのかと確認してみたい。

右のグラフを見てみると、日本の外国人旅行者受入数は他の先進国と比べて非常に低いことがわかる。つまりそれだけ伸び代があると予想される。

(2) 日本の魅力

日本の外国人旅行者の受け入れが少ない理由として、「この国が海外から見て魅力がないのでは」という疑問を考えていきたい。結論を先に述べると、日本に魅力はある。その根拠として、「クールジャパン」という言葉ができ、海外で和食やアニメ・漫画の流行や日本の治安の良さ、日本独自のおもてなしの心など、海外から見ての魅力はたくさんある。近年は海外からの日本への旅行者数が著しく増加している。今後、伊勢志摩サミットや東京オリンピック等の開催により、更に注目を集め、旅行者数は増加すると考えられる。日本の最大の魅力は日本の伝統である。私たち日本人は、今ある伝統を大切に、次世代へと伝えていくことが、最大の魅力づくりに繋がっていくのではないのか。



(3) 昇龍道 9 県の魅力は日本古来の風景

さて、昇龍道プロジェクトが誕生した理由として、海外からの旅行者が東京・大阪に偏っており、その旅行者を魅力あふれる中部圏に呼び込むことができないか、ということからこのプロジェクトが誕生したというのは先に述べた。ではなぜ東京や大阪に旅行者が固まってしまうのだろうか。

まず日本の魅力としてアニメや漫画というのをあげた。これは秋葉原に代表されるように東京が盛んである。また、東京はテーマパークや大規模な商業施設が多数ありその数は他の地域を圧倒している。大阪はお好み焼きにたこ焼き、ラーメンなど日本独自の食が海外にうけている。

昇龍道 9 県では東京・大阪にアニメ・漫画や大規模な商業施設など、近代的な魅力では勝てない。ではどこで勝てるのか。

私たちはテーマ的に日本語からの情報収集から英語での情報収集にシフトしなければならないと思い、英語サイトから情報を集め始めた。海外サイトに多く見られたのは「Most Beautiful Places In Japan You Didn't Know Existed」といった見出しの記事であった。ここで紹介されている風景は、高層ビルや夜景が綺麗なものではなく、神社やお寺、池や島といった日本古来の風景を残したものであった。これこそ昇龍道 9 県が持てる最大の魅力である。

昇龍道プロジェクトの売りは温泉や自然環境、伝統的な料理やお祭りなどであり、これは海外の人が日本の魅力と感じてくれるポイントである。

ここで気になったのは「You Didn't Know Existed」の文である。この文からわかるのは日本の風景の魅力がいまいち海外にアピールできていないということである。観光庁の外国人旅行者アンケートによると「英語でコミュニケーションが取れない」と答えた割合は 30% 近くにもなるそうだ。

日本では地方に行くほど英語が通じにくくなっていく。つまり観光の名所である地方が英語に対応できていない事が、観光業が弱い由縁ではないだろうか。

昇龍道 9 県が強い対応力と発信力を持てれば、日本の風景に並ぶ魅力になると思う。

中部運輸局訪問記

(1) 動機

私たちは当初、第一スクリーニングの時点で、インターネットないし新聞などの記事から情報を得ていた。しかし、情報を集めていくうちに、自分たちの得た情報というのが一切、人から直接的に聞いた情報でないことに気が付いた。百聞は一見にしかずという言葉があるように、直接担当者から情報について伺いたいと思った。そこで私たちは中部運輸局にアポイントを取り訪問することにした。

(2) 中部運輸局にて

ア 情報のイメージ

中部運輸局さんのご配慮で、一室を用意していただき、昇龍道プロジェクトに関する情報をお聞きました。

ここで聞いたことの情報の中には、すでにインターネットで調べてある情報もあった。しかし、既知の情報であったそれらでも、**人から直接聞くことによって情報の印象が変わった。**というのは、インターネットで見たとときと情報の厚みが全く違うからだ。インターネット等の媒体から手に入れられる情報というのはそこに書いてあるものしか手に入れられない。

しかし、実際に担当者に会って聞いた情報は媒体の文字には決して現れることのない担当者の思いや、もののとらえ方といった、情報の別の顔が見えてくる。そういった情報こそ今後のスクリーニングに役立つ情報であり、また違った視点を持たせてくれた。



イ 気づいた2つのこと

運輸局を訪問したことによって2つのことに気が付いた。

● 日本の観光業が世界に比べて弱いと

● 昇龍道はまだ発展途上であると

この2つのことを感じたため、私たちは今回の投資が長期的なテーマであることに気が付いた。そこでスクリーニングを強化しようという思いが強まった。

私たちが学んだ多くのこと

(1) 株式と経済の繋がり

これまで数十社分析をしてきたが、予想通りに株価が変動してくれたことのほうが少なかった。それだけ株価の分析とは難しく、また分析し切るということの無い分野であることを痛感したが、だからこそ奥深く面白い分野だと思った。株価の変動は何も企業の業績や IR だけによるものではない。日経平均やダウ、中国市場などの世界の経済も、日本の株価に影響を与えている。また、逆も然り。そんな株を追っていくうち、私たちは初め、地域に着目していたが、それが、日本全体へ、更には世界の経済にまで視野が自然と広がった。それまでは遠くの事と感じ、ぼやけていた外国の動きや経済が、今ではしっかりと目に見える。それだけ世界に関心を持てるようになったのだろう。今回の学習によって、なぜ様々な人が株価に注目するのかを体感できたと思う。そして今後も私たちは日本や世界の情勢に注目していきたい。

(2) スクリーニングを通して

今回私たちが選んだ投資テーマは、長期的でまだ未発展な分野である。そのため、うまく発展してくれれば利益となるが、逆に大きく損をすることもある。そのためスクリーニングの精度にこだわりを持ち、財務諸表分析だけでなく SWOT 分析、CSR 分析まで幅広く行った。

そうすることで、企業を様々な側面から見ることができ、今までは気が付かなかった課題や良さなどを見つけることができた。

それまでは見えてこなかったものが見えてきたのだからとても驚いた。こんな課題が、こんな良さがあつたのかと。私たちは日ごろ「視野を広く」「いろいろな視点でみる」と言われることがあつた。その時はなんのことを言っているのかはつきりとは分らなかった。しかし今ならその大切さが理解できる。

(3) 社会人になる為に私たちが学んだこと

今回の学習で学んだことは数えきれないほどあるが、社会人になる為に私たちが学んだことというテーマに絞ってみると、三つに絞れた。「協力」と「受信力と発信力」、そして「感謝」である。

ア 協力

私たちは4人グループで企業の分析を行ってきた。その作業は一人では到底やりきれない量で、しかも、皆慣れていない作業であつた。しかし、こうしてレポートを提出するに至れたのは4人全員が協力できたからだと思う。時には意見が食い違うこともあつたがそれも乗り越えられた。この経験というのは、社会人になってから必ず役に立つことだと思う。今春から就職し、社会に出て行くメンバーもいるが、今後の人生に生かしていきたい。

イ 受信力と発信力

情報収集をしていく中で、私たちのテーマ的に日本語での情報収集だけでは足りず、英語での情報収集を行うことになった。その作業の中感じたことがある。それは、日本人は英語に弱いということである。英語アレルギーとでも言い表せばいいのか、日本人は英語になると避ける傾向にある。そのため、海外からの情報を受信できず、更に発信もできていない。これは決して今回の投資テーマだけでの課題ではなく、これからの日本人一人ひとりの課題である。

そのため私たちは、受信力・発信力の向上とグローバル化に対応するため、使える英語の学習をしていきたい。

ウ 感謝

今回の日経ストックリーグに参加するにあたり、多くの方に様々な形でご協力いただいた。お忙しいところ、訪問を快諾してくださった、中部運輸局の方々、多くの話を教えてくださった先生方、夜遅くまでレポートを書いているときに気に掛けてくれた家族、そして、困ったときにともに支え合った仲間。私たちは多くの方に支えられていることに気づいた。この感謝の気持ちを今後、少しずつではあるが返して行きたいと思う。

6 参考文献・参考サイト(本文中に紹介している以外のもの)

(1) 参考文献

- ・財務会計 I (東京法令出版)
- ・STOCK FANTASY (日本経済新聞社)
- ・日本経済新聞
- ・中日新聞
- ・昇龍道 春夏秋冬百選(昇龍道プロジェクト推進協議会)
- ・中部運輸局訪問した際に頂いた資料

(2) 参考サイト

- | | |
|-----------------------|---|
| ・YAHOO ファイナンス | http://finance.yahoo.co.jp/ |
| ・就活 SWOT | https://swot.jp/ |
| ・VORKERS ~働きがいすべての人へ~ | http://www.vorkers.com/ |
| ・昇龍道プロジェクト | http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kikaku/syoryudo/ |
| ・Go Central Japan | http://go-centraljapan.jp/ja/ |
| ・CHUNICHI WEB | http://www.chunichi.co.jp/k/shoryudo/?ref=pr |
| ・伊勢志摩サミット 三重県 | http://www.pref.mie.lg.jp/miesummit/ |
| ・日経ストックリーグ | http://manabow.com/sl/ |
| ・日経スマートチャート | http://www.nikkei.com/markets/chart/#/ |
| ・日本経済新聞 マーケット | http://www.nikkei.com/markets/kabu/ |
| ・観光庁 | http://www.mlit.go.jp/kankocho/ |
| ・サイバーエージェント | https://www.cyberagent.co.jp/ |
| ・日本道路 | http://www.nipponroad.co.jp/company |
| ・クスリのアオキ | http://www.kusuri-aoki.co.jp/ |
| ・セブンアンドアイHD | http://www.7andi.com/ |
| ・FFRI | http://www.ffri.jp/ |
| ・ALSOK | http://www.alsok.co.jp/ |
| ・トヨタ自動車 | http://toyota.jp/ |
| ・東海旅客鉄道 | http://jr-central.co.jp/ |
| ・西日本旅客鉄道 | https://www.westjr.co.jp/ |
| ・三重交通グループHD | http://www.sanco.co.jp/ |
| ・名古屋鉄道 | http://top.meitetsu.co.jp/ |
| ・近鉄グループHD | http://www.kintetsu.co.jp/ |
| ・エイチ・アイ・エス | http://www.his-j.com/Default.aspx |
| ・ANA HD | http://www.ana.co.jp/ |